

基準5. 教員

5-1. 教育課程を遂行するために必要な教員が適切に配置されていること。

(1) 5-1の事実の説明（現状）

5-1-① 教育課程を適切に運営するために必要な教員が確保され、かつ適切に配置されているか。

本学では、教育課程の適切な運営のため昭和58（1983）年の開学当初から毎年度、数名の教員を採用してきた。

開学当初の専任教員数は37人であったが、平成16（2004）年度の保健医療学部、平成18（2006）年度の看護学部の学部増設等に伴い、専任教員数は111人（助教以上）となった。なお、設置基準上の教員数は満たしている。（表5-1-1）

【表5-1-1】 専任教員数

学部・学科、研究科・専攻		専任教員数					助手	設置基準上必要 専任教員数	兼任教員数	兼任（非常勤）教員数
		教授	准教授	講師	助教	計				
鍼灸学部	鍼灸学科	5	9	5	12	31	1	14	40	23
保健医療学部	柔道整復学科	6	2	1	5	14	3	14	43	45
看護学部	看護学科	8	3	11	0	22	8	12	27	35
医学教育研究センター		19	11	5	9	44	3	—	0	—
計		38	25	22	26	111	15	40	110	103
鍼灸学研究科	鍼灸学専攻	0	0	0	0	0	0	12	39	0
計		0	0	0	0	0	0	12	39	0
大学全体の収容定員に応じ 定める専任教員数		—	—	—	—	—	—	15	—	—
合計		38	25	22	26	111	15	67	149	103

5-1-② 教員構成（専任・兼任、年齢、専門分野等）のバランスがとれているか。

本学の教員組織の特徴は、本編p.14にも記載のとおり、医学教育研究センターを設置し、専任教員を44人配置している。また、鍼灸学部に31人、保健医療学部に14人、看護学部に22人の専任教員を配置している。

大学全体の専任教員数111人（助手を含めると126人）に対し、兼任（非常勤）教員数は103人である。

また、専任教員の男女比は、表5-1-2のとおり、男性80人（72.1%）、女性31人（27.9%）である。

【表5-1-2】 教員の男女別構成

学部・研究科	職位	男性		女性		計	
		(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
全学部・ 全研究科	教授	28	73.7	10	26.3	38	100.0
	准教授	18	72.0	7	28.0	25	100.0
	講師	12	54.5	10	45.5	22	100.0
	助教	22	84.6	4	15.4	26	100.0
	計	80	72.1	31	27.9	111	100.0

専任教員の年齢構成は表5-1-3のとおりであり、主として、50歳以上は教授で、40歳代は准教授及び講師で、30歳代は助教で構成している。

【表5-1-3】 専任教員の年齢別構成

職位		71歳以上	61歳～70歳	51歳～60歳	41歳～50歳	31歳～40歳	30歳以下	計
教授	人	1	15	21	1	0	0	38
	%	2.6%	39.5%	55.3%	2.6%	0.0%	0.0%	100.0%
准教授	人	0	0	7	17	1	0	25
	%	0.0%	0.0%	28.0%	68.0%	4.0%	0.0%	100.0%
講師	人	0	0	1	14	7		22
	%	0.0%	0.0%	4.5%	63.6%	31.8%	0.0%	100.0%
助教	人	0	0	0	2	22	2	26
	%	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	84.6%	7.7%	100.0%
計	人	1	15	29	34	30	2	111
	%	0.9%	13.5%	26.1%	30.6%	27.0%	1.8%	100.0%

(2) 5-1の自己評価

各学部の専任教員数は大学設置基準を満たしており、大学全体の専任教員数も大学設置基準上必要な専任教員数の67人に対して、111人の専任教員を配置している。

看護学部の教員については、平成18（2006）年度開設後、3年を経過し、完成年度（平成21（2009）年度）に向けて適正な専任教員の配置を行っている。

(3) 5-1の改善・向上方策（将来計画）

保健医療学部・看護学部については、大学院の設置を視野に入れながら専任教員の

充実に努める。

5-2. 教員の採用・昇任の方針が明確に示され、かつ適切に運用されていること。

(1) 5-2の事実の説明（現状）

5-2-① 教員の採用・昇任の方針が明確にされているか。

教員の採用・昇任の方針について、明確にしたものはないが法人本部と大学が連携し、以下のとおり運用している。

教員の採用については、学長及び学部長等であらかじめ意見交換を行ない、採用人数等の調整を図っている。その後「常務理事会」において、採用人数等について、基本方針を決定している。

昇任については、当該教員の所属するユニットの事情等を鑑み、学長及び学部長等と調整を図り、昇任の方針を決定している。

5-2-② 教員の採用・昇任の方針に基づく規程が定められ、かつ適切に運用されているか。

上記の基本方針に基づき「教育職員の昇任に関する規程」に規定する「昇任会議」を開催し「教育職員昇任・採用基準」を基に審査を行い、その結果を教授会に報告している。

また、学長は「昇任会議」の開催前に、教育研究業績書の書類審査と面接を実施し、人物評価も行っている。

(2) 5-2の自己評価

教員の採用・昇任の方針を、法人本部と大学の連携により、適切に運用していると考ええる。

また、教員の採用・昇任に関する規程として「教育職員の昇任に関する規程」及び「教育職員昇任・採用基準」を定め、教育職員の採用・昇任については本規程等に基づき、適切に運用していると考ええる。

(3) 5-2の改善・向上方策（将来計画）

教員の採用・昇任については、全体的に適正に運用しているが、各学部等における基本的な採用・昇任方針を「常務理事会」において検討を進めていく。

5-3. 教員の教育担当時間が適切であること。同時に、教員の教育研究活動を支援する体制が整備されていること。

(1) 5-3の事実の説明（現状）

5-3-① 教育研究目的を達成するために、教員の教育担当時間が適切に配分されているか。

1 授業時間90分で1週間当たりの授業時間数を表5-3-1で見ると鍼灸学部と医学教

育研究センターの教授が多い。また、鍼灸学部の准教授・講師・助教も多い。

【表5-3-1】専任教員の1週当たりの担当授業時間数（最高、最低、平均授業時間数）

鍼灸学部（31人）

区分	教員	教授	准教授	講師	助教	備考
最高		24.5	13.5	13.4	11.5	1授業時間90分
最低		8.4	2.0	7.7	0.0	
平均		17.6	8.2	10.6	7.0	

保健医療学部（14人）

区分	教員	教授	准教授	講師	助教	備考
最高		6.2	9.9	2.9	3.7	1授業時間90分
最低		1.0	4.3	2.9	2.3	
平均		2.8	7.2	2.9	2.6	

看護学部（22人）

区分	教員	教授	准教授	講師	助教	備考
最高		6.9	5.1	6.9	—	1授業時間90分
最低		2.4	3.9	3.2	—	
平均		4.5	4.7	4.7	—	

医学教育研究センター（44人）

区分	教員	教授	准教授	講師	助教	備考
最高		21.1	7.0	3.6	4.6	1授業時間90分
最低		0.2	2.3	1.0	0.0	
平均		8.0	4.2	2.2	1.4	

本学が開講している授業科目における専兼比率を表5-3-2で見ると、鍼灸学部、保健医療学部、看護学部とも専門教育の必修科目の専兼比率が95.6%、90.6%、86.7%と高く、充実した教育を行っている。

また、専門教育や教養教育の選択必修科目は専兼比率が低いが、これらの科目では非常勤講師に講義・実習を依頼して、先端医学、医療あるいは開業の実態を教授することで、より幅の広い知識と学力を持った学生を育てる上で役立っている。

【表5-3-2】学部・学科の開設授業科目における専兼比率

学部・学科			必修科目	選択必修科目	全開設授業科目	
鍼灸学部	鍼灸学科	専門教育	専任担当科目数 (a)	86	21	107
			兼任担当科目数 (b)	4	10	14
			専兼比率 (a/(a+b)*100)	95.6	67.7	88.4
		教養教育	専任担当科目数 (a)	5	0	5
			兼任担当科目数 (b)	4	2	6
			専兼比率 (a/(a+b)*100)	55.6	0.0	45.5
保健医療学部	柔道整復学科	専門教育	専任担当科目数 (a)	77	10	87
			兼任担当科目数 (b)	8	6	14
			専兼比率 (a/(a+b)*100)	90.6	62.5	86.1
		教養教育	専任担当科目数 (a)	4	2	6
			兼任担当科目数 (b)	4	1	5
			専兼比率 (a/(a+b)*100)	50.0	66.7	54.5
看護学部	看護学科	専門教育	専任担当科目数 (a)	65	0	65
			兼任担当科目数 (b)	10	4	14
			専兼比率 (a/(a+b)*100)	86.7	0.0	82.3
		教養教育	専任担当科目数 (a)	7	2	9
			兼任担当科目数 (b)	2	15	17
			専兼比率 (a/(a+b)*100)	77.8	11.8	34.6

5-3-② 教員の教育研究活動を支援するために、TA (Teaching Assistant) 等が適切に活用されているか。

大学院生を学部教育の実験・実習の補助者として「ティーチングアシスタント規程」に基づき、適切に活用している。

平成19 (2007) 年度のTA実施状況は、表5-3-3のとおりである。

【表5-3-3】平成19年度TA実施状況

研究科	課程	TA従事人数	TA従事時間数	平均時間数
鍼灸学研究科	博士前期課程 (修士課程)	9	330	36.67
	博士後期課程	5	268	53.60

5-3-③ 教育研究目的を達成するための資源 (研究費等) が、適切に配分されているか。

本学で定めた研究費等の基準額は表5-3-4のとおりで、この額に基づき、当該ユニットの職位の教員数に乗じて、ユニット単位に配分している。

【表5-3-4】平成20 (2008) 年度の研究費等の基準額 (一人当たりの基準額)

区分	研究費		研究旅費	諸会費	図書費	合計	
	実験系	非実験系				実験系	非実験系
教授	406,000	203,000	100,000	20,000	20,000	546,000	343,000
准教授	282,000	141,000	100,000	20,000	20,000	422,000	281,000
講師	216,000	108,000	100,000	20,000	20,000	356,000	248,000
助教	138,000	69,000	100,000	20,000	20,000	278,000	209,000
助手	55,000	—	70,000	20,000	20,000	165,000	—

平成20 (2008) 年度の研究費の総額は、約9,750万円 (上記表5-3-4の研究旅費、諸会費、図書費は含まない) である。研究費は、本学で定めた基準額に基づき配分する研究費・研究旅費等と戦略的研究費等に大別する。

平成15 (2003) 年度から平成19 (2007) 年度まで学部横断的に行っていたプロジェクト研究を発展的に解消し、平成20 (2008) 年度から開始した戦略的研究費は、学内公募研究費 (一般公募研究・若手育成研究・統合医療推進研究に区分) として2,000万円、国際交流推進費として800万円を配分している。

ほかには、学内の共同・共通の研究室の維持管理に要する経費と附属東洋医学研究所が掌理する各共同利用施設の運営費に配分している。

また、教員は個々に大型研究設備を所有しなくても共同利用施設を使用することが可能で、効率的に研究を遂行している。

海外で学会発表等を行う教員には、研究旅費以外に必要なに応じて、当該予算の範囲内で、研究旅費の補助として支給している。

また、学外からは、科学研究費補助金や政府又は民間からの助成金、受託研究費等の外部資金により研究活動を行っている。

外部資金の導入でも重要である科学研究費補助金は、平成16（2004）年より毎年申請時期に説明会を実施するとともに応募促進をした結果、申請件数は、平成17（2005）年度は29件、平成18（2006）年度は53件、平成19（2007）年度は67件となり、採択件数もそれぞれ、5件、6件、8件と増加している。

また、受託研究費の獲得件数は、平成17（2005）年度は14件、平成18（2006）年度は19件、平成19（2007）年度は21件と年々増加し、その金額も増加している。

大型研究設備等の整備は、私立大学等研究設備整備費等補助金等を積極的に活用し、研究設備等の充実に努めている。過去5年間の整備状況は表5-3-5のとおりである。

【表5-3-5】過去5年間の大型研究設備等の整備状況

年度	設備名	整備金額	補助金額
平成15年度	6号館マルチメディア教室	21,510,825円	10,755,000円
平成16年度	東洋医学 マルチメディア アーカイブシステム	18,900,000円	8,066,000円
	超高速高分解能MR画像用システム	14,700,000円	8,364,000円
平成17年度	生体ニューロン活動の細胞内記録装置	17,999,100円	11,999,000円
	鍼灸臨床教育及び鍼灸臨床研究のための情報端末とサーバシステムの構築	13,230,000円	5,975,000円
平成18年度	鍼灸医学研究用細胞自動解析・分離システム	20,527,500円	13,685,000円

教員研究室は、個人研究室若しくは共同研究室として全教員に確保している。1室当たりの平均面積は、個人研究室では、20.7㎡、共同研究室では、43.5㎡であり、専任教員（助手は除く）1人当たりの平均面積は、17.7㎡である。

（2）5-3の自己評価

専任教員の1週間当たりの授業時間は、鍼灸学部の教員と医学教育研究センターの教員の一部は、大学院の教育や附属病院又は附属鍼灸センターにおけるBST（Bed Side Teaching）を担当しているため、多くなっている。

専兼比率は高く、特に専門教育においては、専任教員を中心に教育が行われていることが伺える。

TA制度は適切に機能しているが、大学院生の研究活動に支障を来さないよう、配慮する必要があると考える。

平成20（2008）年度の教員一人当たりの研究費は、個人で研究を行うのには十分な額とは言えないが、学内公募研究費の2,000万円がその額を補っているとともに、ユニット内やユニット間での共同研究が行え、効率的な研究が行われていると考える。また、若手研究者の育成並びに本学が目指す統合医療を促進することが期待できる。

平成19(2007)年度まで実施していた「明治鍼灸大学プロジェクト研究」は、多数の教員の参加のもと一定の成果を上げたと評価できる。

教員研究室は、個人研究室及び共同研究室として整備している。特に、附属東洋医学研究所内にある基礎医学系教員の共同研究室は、共同利用施設に併設する形で整備しており、多くの共同利用施設の管理と運営を基礎医学系教員が行う合理的な研究体制であるとする。

（3）5－3の改善・向上方策（将来計画）

一般教養系の授業科目は、非常勤講師への依存度が高くなっているが、本学における教養教育の充実に向けた取り組みの中で、人的配置も含めた方策の検討を行う。

鍼灸学部では、専任教員は一定数を確保しているが、実習教育が多く、教員の授業負担が多くなっているため、今後の教員採用も助教以上の者を計画的に採用するとともに、教員の教育研究活動を支援するために、TA制度を活用していく。

大学の研究費は、限られた予算を有効的に活用できるよう、平成20（2008）年度から配分方法を変更した。研究費の増額は大学の財政状況から難しく、今後も有効的に活用するためこの配分方法を継続するとともに、科学研究費補助金や政府又は民間からの助成金、受託研究費の外部資金の獲得に向けて積極的に取り組んでいく。

5－4．教員の教育研究活動を活性化するための取り組みがなされていること。

（1）5－4の事実の説明（現状）

5－4－① 教育研究活動の向上のために、FD等の取り組みが適切になされているか。

平成14（2002）年度から、原則年1回、学外の講師を招きFDに関する講演会を行った。なお、平成20（2008）年度は10月23日に開催を予定している。（講演テーマは未定）「FD講演会」の実施状況は下記の表5-4-1のとおりである。

【表5－4－1】FD講演会の実施状況

講演日時	講演テーマ
平成14年5月30日	FDとは・FDの必要性について及び導入教育の事例と最近のFDに関する動向について
平成15年5月22日	岐阜大学に於けるチュートリアル教育について
平成16年5月20日	授業評価について
平成17年10月20日	医学教育におけるコアカリキュラム

また、学内の教員による教育実践における独自の工夫や教育評価実践例、種々の教育評価法について発表を行う「教育懇談会」を、平成12（2000）年度は3回、平成13（2001）年度は7回、平成14（2002）年度は6回、平成15（2003）年度は4回、平成16（2004）年度は3回実施した。

平成17（2005）年度から「FD研修会」と名称を変更し、内容も本学における教育評価と教育改善を軸としたものとし、平成17（2005）年度は1回、平成19（2007）年度は2回実施しており、平成20（2008）年度は外部講師による「FD講演会」も含め、4回を計画している。平成17（2005）年度から行っている「FD研修会」のテーマ等は、表5-4-2のとおりである。

【表5-4-2】 FD研修会の実施状況

日 時	テ ー マ
平成17年9月1日	FD活動と学生による授業アンケートについて
平成19年10月25日	明治鍼灸大学におけるFD活動について
	学生レベルに応じた教育を提供できるのか？ ー学力向上を促す方法論は何かー
	よりよい教育をめざして ー特に授業内容の擦り合わせを中心にー
平成20年2月28日	授業アンケート結果の分析について
	授業アンケート 授業改善小委員会からの提言及び意見交換
	FDについて提言

平成17（2005）年度から一部の科目において試験的に「授業評価アンケート」を実施した。このアンケート結果における問題点を踏まえ、平成19（2007）年度から全学部の全授業科目を対象に「授業評価アンケート」を「自己点検実施委員会」が年2回（前期・後期の最終授業時）実施し「FD委員会」がそのアンケートの分析・公開を行うとともに、フィードバックの方法などを検討している。

「授業評価アンケート」の結果は、学部毎の学年別に集計し、学内ホームページで公開し、教員に対しては学部毎の学年別集計と担当授業科目毎の結果を配付している。

また、平成19（2007）年度から、FD活動をより活性化させるために「FD研修会」の内容や「授業評価アンケート」に関する記事などを中心とした「FD News Letter」を発行し、全教職員にメールで配信している。

5-4-② 教員の教育研究活動を活性化するための評価体制が整備され、適切に運

用されているか。

教育におけるFDを活性化させる一手段として、前述の「授業評価アンケート」を行っている。アンケートは、担当授業科目毎に全学生分を配布し、数値の評価に加え自由記述の欄があることから、学生個人の意見ではあるが、優れている点あるいは改善が必要な点を具体的に把握することが可能である。

研究面においては、大学紀要である「明治国際医療大学誌（平成19（2007）年度までは明治鍼灸医学）」に全教員の研究業績をユニット毎に一覧として毎年掲載している。

また、専任教員は、教育研究業績書を毎年度末に事務局に提出している。

（2）5－4の自己評価

「授業評価アンケート」については、アンケート項目、学外への結果の公開方法などを検討する必要がある。アンケートの実施は「自己点検実施委員会」が統括・実施を担当し「FD委員会」が分析・公開・フィードバック方法を検討する組織体制に区分していることから、担当組織を一本化することが望ましい。

学外講師による「FD講演会」は、概ね好評であるが、より幅広い視点から講師を選び、充実した研修内容とする必要がある。

「FD研修会」の内容は、平成20（2008）年度から教育内容に踏み込んだものを計画しているため、よりきめ細かい内容となることが期待される。

また、「FD News Letter」は発行したばかりであり、内容をより充実させる必要がある。

研究業績は、ユニット毎の業績を年1回公表し、また、専任教員の教育研究業績も年1回まとめてはいるが、評価体制を整備していないため、教育研究活動の活性化の手段としては十分ではない。

（3）5－4の改善・向上方策（将来計画）

「授業評価アンケート」の改善・充実等に向け「FD委員会」でさらに検討を行っていく。

「FD講演会」は、より幅の広い内容で実施することを検討していく。また「FD研修会」は、細かな内容でのワークショップ形式を検討する。また、「FD News Letter」の内容の充実に努める。

教員の教育研究活動を活性化するための評価体制が整備できていない。組織的に公平性のある評価を行うため、「教員評価体制の整備に向けた委員会（仮称）」を設置し、具体化に向けた取り組みを行っていく。

【基準5の自己評価】

教員については、3学部1研究科の教育遂行上、適切な配置ができていると判断する。

教員の採用・昇任の方針は明確にしていけないが、法人と大学の密な連携により、その都度基本方針を決定し、規程並びに基準に基づく採用・昇任を行っているので適切と判断する。

教員の教育担当時間は、鍼灸学部の教員及び医学教育研究センターの教授の授業時間数が多く、研究活動に影響を及ぼす可能性がある。

大学全体の研究費の総額は、例年、前年度と同額程度を配分している。また、平成20（2008）年度から配分方法の見直しを行い、研究費の効果的な配分を行っている。

「授業評価アンケート」は、次年度の教育へのフィードバック方法、アンケート項目の改善点、学外への結果の公開方法などについて、検討を行う必要がある。

「FD研修会」は、学部ごとの教育内容まで踏み込んだものを計画しているので、今後は、よりきめ細かい内容となることが期待される。また「FD News Letter」は、内容をより充実させる必要がある。

教員の教育研究活動を活性化するための評価体制を整備する必要がある。

【基準5の改善・向上方策（将来計画）】

教員の採用・昇任の方針は、全体的に公正かつ、適切に行われていると考えるが、各学部等に亘る基本的な採用・昇任に関する制度を検討するとともに、専任教員の数的バランスや配置など、将来を見越した人事計画の策定等の基本方針を「常務理事会」で検討していく。

鍼灸学部の教員及び医学教育研究センターの教授の授業時間数が多く、研究活動に影響を及ぼす可能性がある。また、教員の教育担当時間は、各学部等の特性はあるものの一定の基準を設けることが必要と考えるので、責任授業時間数の規定について検討していく。

FD活動として、専任教員の個々のスキルアップは当然のことながら、組織的な取り組みとして、「FD講演会」及び「FD研修会」について、継続的に実施し「FD News Letter」の内容の充実に努める。

教員の教育研究活動を活性化するための評価体制を整備するために、委員会を設置し、具体化に向けた取り組みを行っていく。